

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp URL: http://www.elv.or.jp/

第31回 合同会議開催される

[執筆／広報部会]

《第31回 合同会議 概要報告》

■開催日時 平成25年8月7日(水) 10:00 ~ 12:15

■場所 航空会館 7階 大会議室(港区新橋)

「合同会議」とは……?

産業構造審議会(産構審)と中央環境審議会(中環審)が
合同で開催する会議

1. 自動車リサイクル法の施行状況報告(環境省)

- 使用済自動車の引取台数は、平成23年度に法施行以降初めて300万台を下回ったが、平成24年度は前年対比約15%増の341万台と持ち直した。
- 引取車台の平均使用年数は、引き続き長くなっており、平成24年度は14.1年(平成23年度:13.7年)となった。
- 過去2年間は減少傾向にあったオークション流通台数が、平成23年度に約11%増加し、4721万台に及んだ。
- 一時、相手国の関税引下げ等により減少した輸出仮末梢登録が、平成22年度より回復傾向となり3年連続で増加した。増加原因は、ロシアのWTO加盟による関税引き下げ、ミャンマーの自由化による市場拡大並びに円安傾向が挙げられる。
- 自動車メーカー各社とも、基準(ASR:50%、A/B類:85%)を上回るASRとエアバッグ類のリサイクル率を達成し、かつ前年度を上回った。
- ASRのリサイクル率が向上し、車1台当たりの最終処分量(埋め立て、単純焼却等)が9kgとなった。(法施行前:64kg、平成21年度:33kg)
- 平成24年度現在の登録・許可事業者数は、同年中に更新期限(5年毎)を迎えた事業者が多かったこともあり、全ての業種で対前年度比減少した。

引取業者	: 約4.4万業者(5.34万 平成23年度)
フロン類回収業者	: 約1.3万業者(1.54万 ")
解体業者	: 約5.6千業者(5.83千 ")
破碎業者	: 約1.2千業者(1.21千 ")
- 平成24年度末時点のリサイクル料金預託台数及び預託金額残高

預託台数	: 76,931,361台
預託金額	: 821,439,261千円
- 平成24年度の工程内処理平均日数は、引取工程:1.9日、フロン類回収工程:1.8日、解体工程:7.8日、破碎工程:23.9日となった。
- ELV機構河村代表理事より、解体業界の技術的、社会的向上を目指して、「自動車リサイクル士制度」の構築を行っており、間もなく、全国規模の認定講習会を開催することを発表した。

(次ページに続く)→

目次

巻頭言	 1
トピックス1	
第31回 合同会議	 1 ~ 2
トピックス2	
関東 リハーサル研修会	 3
業界関連ニュース	 3
インタビュー	 3
会員活動報告	 4
VOICE	
～ 皆様からのお声 ～	 5
鉄スクラップ最新情報	 6
行事予定	 7
お知らせ	 7
編集後記	 7

巻頭言

ELV機構のホームページの左側メニューに『リンク用バナー』が追加されました。

(<http://www.elv.or.jp/0-0-436.html>)

まずは広報委員のメンバー4社のHPにて試験的にバナーを貼ったところ、1か月間で20件でアクセスが10件ありました。ELVの会員であることを周知させたい方は是非ご利用ください。

今後は【自動車リサイクル士】のバナーを作成し、リンク先のページでは、自動車リサイクル士がどんな資格なのかを、一般の方にも分かりやすく解説していく予定です。

リサイクル士講習会への受講を躊躇されている方は、この機会にご参加ください。

(広報部会委員 小宮山 敬仁)

2. 環境負荷物質削減に関する 自動車メーカーの自主的取り組み

日本自動車工業会並びに輸入組合から、メーカーによる環境負荷物質削減の取り組みに関する状況が報告された。

- ① 日本メーカーは、2012年現在の新型車において、鉛、水銀、6価クロム、カドミウムの対象4物質全てに関し目標を達成した。なお、6価クロムについては2008年1月、カドミウムに関しては2007年1月以降、それぞれ使用禁止としている。
- ② 欧州車、米国車、韓国車に関しては、現時点で、EUのELV指令(2000/53/EC,2013/28/EU)に基づく対応がなされている。

3. その他の関連状況

① ASR分析調査について(環境省)

環境省では、自動車リサイクルにおける有害物質対策に向けた基礎的データの収集、自動車メーカー等の削減努力の効果検証を目的に、ASRの性状、含有元素等について分析を行ってきた。

ASR中の重金属、臭素系難燃剤について、複数年度の分析結果から、検出されなくなった物質、削減傾向が見られる物質があることから、自動車メーカーの「自主的削減努力が功を奏していると判断される。

しかしながら、ASRは、異なる年式の使用済自動車から成っているため、新車への削減効果が直ちにASRの分析結果に反映されるものではないことが指摘された。

② 使用済み鉛蓄電池のリサイクルについて

平成6年10月より、国内電池メーカーが自主的に使用済み電池から回収した再生鉛を購入することで成立するスキームを構築し、そのために設立された「鉛蓄電池再資源化協会(SBAR)」がシステムの運用を行っている。

本システムは、SBARが核となる廃棄物処理法に基づく広域認定によって運用されるものであるが、現在は、再生鉛の市場価格が高く推移しているため、システム利用者数(回収数)が伸び悩んでおり、今後は排出事業者登録の促進に力を入れていく。

運用体制(平成25年6月末時点)

■ 参加電池メーカー	7社
■ 排出事業者(販売店等)	6,728件
■ 回収事業者	87社
■ バッテリー解体業者	15社



(↑写真:会議の様子)

③ 使用済自動車からの発炎筒回収処理システム

発煙筒メーカー2社では、自主的取り組みとして、使用済自動車から回収した発煙筒の処理を行う「安全管理プログラム」を本年1月から運用している。同スキームの利用者は、廃発炎筒の処理に困る解体業者、破砕業者が想定されており、現在、これら事業者に対する周知活動に力を注いでいる。

④ 使用済みニッケル水素電池・リチウムイオン電池のリサイクルについて

自工会代表より、使用済み電池類の回収状況につき報告があった。それによると、2012年度中に発生したリチウムイオン電池が22個、ニッケル水素電池が3,820個であり、ニッケル水素電池については60%が自動車メーカーの回収システムで配収されたとのこと。未回収分は、電池としてリユースされているものと思われる。

自動車メーカー各社の電池回収スキーム並びに再資源化プログラムについて資料配布があった。(事務局保管)

本件に関し、ELV機構河村代表理事より、機構ではメーカーの回収スキームに積極的に参加協力する意向である旨、述べた。

4. 今後の取り組みについて

自動車リサイクル法附則13条には、「法施行5年以内に政府はこの法律の施行状況について検討を加える」ことが規定されていることから、合同委員会では、平成20～21年度に合計16回の合同会議を開催し、自動車リサイクル法の施行状況の検討を行った。今回の会議において、政府より、法施行10年までに、前回同様の施行状況の検討を行う方針が示され、次回会議(第32回:平成26年)をもって、施行状況の検討を開始する旨の発表があった。

関東ブロック リハーサル研修会 無事修了

[執筆／広報部会]

8月7日(水)10:00よりELV機構本部事務所にて、自動車リサイクル士認定講習会における関東ブロックリハーサル研修会が開催されました。当日は自動車再資源化機構 須藤部長、吉川副代表理事、金澤ブロック長議長(関東ブロック長)、三木リサイクル技術部会長、松田沖縄ブロック長とインストラクターの皆様、また、自動車リサイクル士制度認定講習会アドバイザーとして今城高之様と、大勢の参加の中開催されました。

インストラクターの皆様は役割を分担し、二人一組で講義の内容を読み合わせ。会議室は様々な講義内容が飛び交い、またお互いを指摘し合い、より良い講習会としていこうとインストラクターの皆様は真剣なまなざしで行っていました。

後半の時間では、参加者の前でチームごとでのリハーサルの講義を行いました。所定の時間内で伝えたいことが伝わっているか？声の出し方は？目線は？そして、参加している皆様から様々な意見または感想を聴き、今後開催される講習会の事前の研修会が終了しました。

関東ブロックからはじまる自動車リサイクル士制度認定講習会。今後全国の各ブロックにて開催されますが、私たちの業界が少しでも良くなってもらえるようにと多くの関係者の皆様の協力をいただいて開催されるこの認定講習会へ、一人でも多くの方々に参加をしていただきたいと思います。

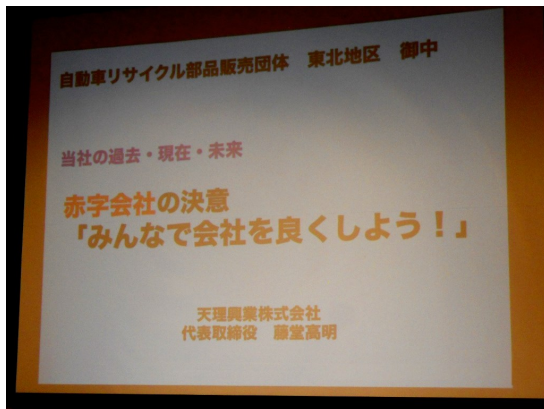
(写真:研修会の様子 →)



業界関連ニュース

東北にて交流会開催

[執筆／広報部会]



(↑写真:講演にて映し出されたスクリーン)

平成25年8月24日、宮城県仙台市、勝山館にて自動車リサイクル部品販売団体東北地区交流会が開催されました。これは東北地区の各部品団体が一堂に会し、リサイクル部品を取り扱う同業者同士、より懇親を深めようといった目的で5年前より催されました。

今回は部品団体6団体に加え、システム会社、リビルト業者も多数参加し総勢87名が集い、年に1回の親睦を図りました。また、自動車雑誌等でも整備業若手経営者として話題の天理興業株式会社藤堂高明社長より「赤字会社の決意」という演題で業績回復をテーマに講演を頂きました。

インタビュー

松田 沖縄ブロック長に聴く

[取材・執筆／広報部会]

Q1. 沖縄ブロックをどんなブロックにしていきたいですか？

A1. 相手から入会したいと思うような活動をみんなといっしょに創り上げたいです。

Q2. 地域団体では定期的にどんな活動を行っていますか？

A2. 行政との懇談会を定期的に年1~2回行っています。様々な情報の交換が必要不可欠だと思います。

Q3. 自動車リサイクル認定講習会について、お聞かせください。

A3. リサイクル技術部会に所属し協力させていただきましたが、一番は講師の育成だと思います。

Q4. 最後に松田ブロック長の想いをお聞かせください。

A4. 地域性を考えても地域内の中古部品の活用を広めていきたいです。その中で組合員一社一社のレベルアップが出来ればと思います。



(↑写真:沖縄ブロック長
松田 和生 様)

環境省 連携高度化事業応募のお知らせ

[執筆／総務部会 部会長 酒井 康雄]

昨年、一昨年と取り組みました環境省による連携高度化事業が募集されましたので、日本ELVリサイクル機構として本年度も応募しました。8月6日に締め切れ、9月上旬には採用の可否が発表されます。

応募の内容としましては、昨年に引き続きコンピューター基板を全国レベルで実施すること[全国で1万台以上目標]。また、昨年度実験的に実施したネオジム磁石[HV車のモーター]の回収を全国展開すること[全国で400台以上目標]としています。

目的としましては、コンピューター基板に関しては、精錬メーカーと連携し、コンピューター基板の分類方法を研究することにより、精錬にかかるコストと物流にかかるコストを削減し、ビジネススペースに乗るようにすることです。また、ネオジム磁石に関しては、分解、消磁、物流の方法を研究し、磁石メーカー納入に必要な量を集めて、事業性を検証することです。

いずれも、現状では採算的には厳しい品目ですが、私たちの持つ全国のネットワークという他にはない力を結集して、将来を見すえた活動として、取り組んでいきましょう。

事業が採用された際には再度ご案内しますが、皆さんのご協力よろしくお願いたします！

総務部会 部会長 酒井 康雄

1. 貴金属等の回収事業

⑩

平成24年度実績

- 参加事業所数
日本ELVリサイクル機構会員の**273事業所**が参加
- 総処理台数
11,773台 (約1か月でおよそ1万台を回収)
- 回収結果

回収品目	回収重量	回収個数
エンジンコンピューター	2,849kg	14,459個
エアバッグコンピューター	1,358kg	12,032個
エアバッグカプラー	444kg	38,034個

3. ネオジム磁石回収実験

⑭

実験結果

の消磁可能性の検証

実験により、強力な磁力を持つネオジム磁石は、バーナーで加熱することで消磁できることが確かめられた。消磁までにかかる加熱時間は、モーター用に8枚磁石がついた状態で15分程度であった。



(↑写真:昨年度の連携高度化事業 報告資料)

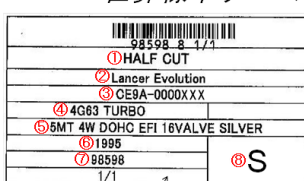
環境省の連携高度化事業に応募しました

[執筆／株式会社シーパーツ]

日本ELVリサイクル機構会員の「株式会社シーパーツ」様(山口県)よりご寄稿いただきました。



世界標準リユースコード(仮称)



リユースコードの中に自動車リユース部品の生産者名を加える。

①:自動車リユース部品名

②:自動車名

③:車体型式(車台番号)

④:エンジン型式(付帯情報)

⑤:エンジン情報
5MT =5速のMT車
4W =4輪駆動 etc...

⑥:年式

⑦:車輛個々に振り分ける番号

⑧:世界品質規格

(↑写真:当社で使用している品質表示ラベル)

株式会社シーパーツは、このたび環境省の委託事業(平成25年度自動車リサイクル連携高度化事業)にチャレンジしてみました。

この事業は、以下の目的を達成するための委託事業です。

- 自動車リユース部品(リビルト部品を含む)の利用促進
- 自動車に使用されている有用金属・レア金属のリサイクルの促進
- 自動車破砕残さ(ASR)の発生抑制又は材料リサイクルの促進

当社は、自動車リユース部品の販売を、独自の販売ソフト(海外向け)とブロードリーフの販売ソフト(国内向け)の2系統で行っているため、a)に応募してみました。それは、海外においては、日本国内とのニーズが異なるため、自動車リユース部品販売の会員制専用Webサイトを製作し、インターネットでの受注をメインにしているからです。

したがって、当社には、海外バイヤーの滞在者はいません。すべて、システム内のオーダーで、自社スタッフがコンテナのバンニングと、輸出手続をしております。したがって、バイヤーからの品質に対するクレームは、直接受けています。これにより、厳しい品質管理と表示が重要になるので、国内販売と同じ品質表示と管理を行っています。海外のバイヤーも最近では、品質に対する要望は、国内販売と同じレベルを求められますが、重要なことは、客観的な表示に対してのバランスの取れた価格が重要だと思います。

リユース部品は、品質表示がしっかりしていれば、機能的に問題があっても使用目的に応じてのマーケットが存在します。自動車リユース部品の更なる拡大には、世界共通の品質表示や管理が必要と思われるため、この事業に応募しました。写真は、当社で使用している品質表示ラベルです。ブロードリーフのソフトが基本になっているので、全国で1000社以上の同業者様には、抵抗無く導入できるようにしております。興味のある方は、当社の古村(0827-84-3028)までお問い合わせください。

【全4回連載】第2回 「歴史は動きます。」 河村代表理事より

[執筆／代表理事 河村 二四夫]

- ◆ 近年ELV機構の各委員会活動が活発化している要因は、ELV機構の理事・委員長の皆様が各事業に積極的に参加している成果です。又、新事務局体制の整備が進み、今後は会員サービス向上が期待されます。関係団体との積極的な協議などといった業務を遂行しています。今年は優先事業を中心に意欲的に取り組んでいきます。
会員の皆様と共に自動車リサイクル業の今後を信じて、積極的な参加で情報を持ち帰り、各事業に役立てる事を願います。

- ◆ **時代はその時を迎えた** ELV機構は総会後の6月19日に自動車リサイクル士制度創設の理事役員・指導員、対象の準備講習会を自動車会館で100名の関係者で開催して無事終了しました。

「**時代の第一歩です**」 関東ブロック会員対象の本格講習会が8月23日にスタートしました。

今後、他のブロックにおいても、順次講習会を開催していきます。

「**講師陣の顔ぶれ**」 環境省・経産省・自工会・自再協・促進センター・ELV役員など、多彩なオールスター体制でありELV機構の業界力の結集です。

自主認定の資格制度は、ELV会員の表看板であります。今後は9月～来年3月までの間に全国各8ブロックで講習会を開催します。自動車リサイクル法制度の理解の教育に向けた認定講習会であります。今後は自動車リサイクル業の新許可・更新許可など申請要件の義務化に向けて取り組みます。以後の日程は追って発表します。認定資格制度で自動車リサイクル業界は今後大きく変貌します。「**ELVの歴史は動き始めました**」。

【全4回連載】東京自動車リサイクル協議会 株式会社 大八商会 小宮山様より 第2回 「万が一に備えて私たち解体業者が加入すべき保険」

[執筆／株式会社 大八商会 代表取締役 小宮山 敬仁]

労災の適用は『勤務時間・通勤途上に発生した怪我・事故のすべて』です。

通勤途上での怪我には以下の3つが考えられます。

<1> 自分だけが怪我をした。(例:運転中の脇見運転で電柱にぶつかった)

→ この場合は労災が適用されます。

<2> 相手に怪我をさせた。

→ この場合は労災が適用されず、各自の自動車保険を使用します。

もし、社員が保険に加入していない場合、会社が使用者責任を負わされる可能性があります。

なお当社では、対人・対物無制限の保険に入っていない社員の車通勤を認めていません。

<3> 相手に怪我を負わされた。

→ 労災が適用されますが、第3者にも求償した場合、労災は給付制限されます。

(労災も請求できますが、単純な‘二重取り’はできません)

勤務中では以下のケースでも適用されます。

○ フォークでの作業中に部品・車両が落下。作業員の怪我及び死亡。

※ 車検のないフォークリフトで、路上で作業した場合でも労災が適用。

○ 外国人バイヤーとのトラブルによる暴力での怪我及び死亡。

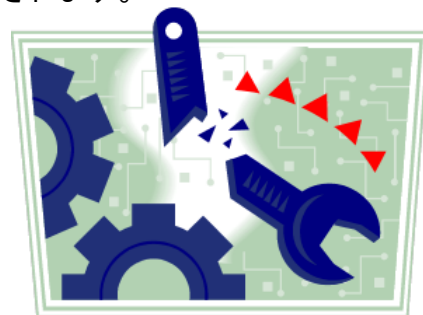
○ 会社の車両整備中のタイヤ破裂による怪我及び死亡。

○ ガソリン・アセチレンなどに引火し、爆発 → 作業員が怪我及び死亡。

○ 場内に保管中の商品が崩れ、従業員及びスタッフが怪我及び死亡。等々。

※ 労災の補償対象は社員です。外部の人に危害を加えてしまった場合は、自賠責保険や任意保険で対応します。

次回はフォークリフトと自賠責保険の関係についてお伝えします。



鉄スクラップ最新情報

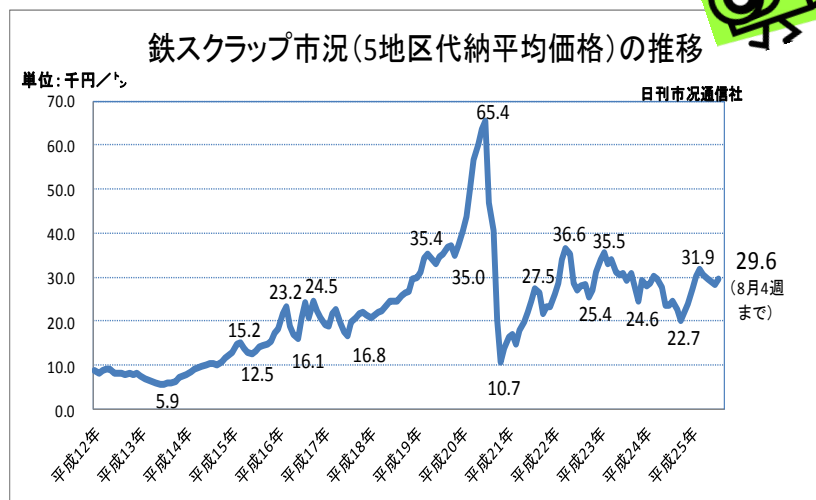
■ 8月第5週(27日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供／日刊市況通信社]

韓国現代製鉄H2にFOB3万2000円を提示 日本側指値と2,000円超開き

韓国の現代製鉄は23日、新規の日本産スクラップの輸入商談で、H2に対して1トあたりFOB32,000円どころを提示した。成約数量などは不明。貿易筋などによると、現代製鉄の提示価格は日本商社・シッパー筋の指値と比べて2,000円超の安値となっているため「成約は困難ではないか」と見ている。

現代製鉄の8月初めの日本H2に対する指値はFOB31,500円どころだったため、500円どころの値上がりとなった。しかし、関東湾岸のH2浜値(FAS)がすでに33,000～33,500円中心に上伸しているため、日本側の指値はFOB34,000円を超えている。国内相場の上伸に合わせて値上げを求める日本商社・シッパー側と、高値契約に難色を示す韓国ミル側との思惑の差が浮き彫りになった格好だ。



東京製鉄、8月20日から連続の値上げ改定

東京製鉄は、旧盆明けから鉄スクラップ購入価格の値上げ改定を既に3回実施した。まず8月20日に全拠点で1トあたり工場・品種別に1,000～2,500円の値上げ。値上げの改定は今年3月15日以来、約5カ月ぶり。その後、23日付で全拠点とも1,000円値上げし、さらに27日付で宇都宮工場を500円値上げ、その他の拠点を1,000円値上げした。

【関東地区】東鉄改定後、基調は強含み 商社シッパーは価格据え置き

8月27日の国内スクラップ炉前実勢価格			
		H2	気配
関東	北関東	32,500 ～ 34,000	値上がり
	南関東	32,500 ～ 34,000	値上がり
名古屋		32,500 ～ 33,000	値上がり
関西	大阪	33,000 ～ 34,000	値上がり
	姫路	33,500 ～ 34,000	値上がり

関東地区では、東京製鉄の20日、23日の値上げ時に建値改定を見送った電炉筋が多かった。しかし、同社が500円の値上げを27日に実施した際には、この上げ幅を上回る1,000円どころの値上げ改定を実施した電炉もある。H2炉前実勢価格は32,500～34,000円中心、高値34,500円見当。湾岸商社・シッパー筋は、既に集荷価格が高く採算が悪化しているため、大勢様子見で集荷価格を据え置いている。H2の湾岸浜値は33,000～33,500円中心。

【東海地区】東鉄田原の上げ幅合計は3,500円(特級)、市況は一段高気配で月末に

東京製鉄が27日付で購入価格を引上げ、田原工場の陸・海上特級は34,000円、新断36,000円となった。3回の値上げによる上げ幅は特級ベースで3,500円。他の電炉筋は今回、即時の追随は見送った。しかし東鉄田原との値開きは実勢値で1,000円見当開いたことから、月内にも対応を迫られる公算となり、市況はなお一段高気配で月末に向かうと見られる。名古屋地区のH2炉前実勢価格は32,500～33,000円どころ中心へ上伸。

【関西地区】27日からの値上げ改定広がる 市況は急伸展開

大阪地区では27日から、東京製鉄の値上げ改定に合わせて大勢が追加値上げへ踏み切り、市況は急伸展開を見せている。市中では意図的に出荷ペースを落とす動きが見られるほか、出荷のタイミングが計りづらいという声もあり、月末ながらも荷動きは電炉の入荷を押し上げるまでに至っていない。H2炉前実勢価格は33,000～34,000円。姫路地区の電炉4社は27日から1,000円の値上げを実施。H2炉前実勢価格は33,500～34,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、8月27日午後時点のもの)

行事予定

■9月の主な予定

9月5日(木)

・第5回 リサイクル技術部会

9月6日(金)

・ブロック長会議

9月11日(水)

・インストラクター向けリハーサル研修会
(東北ブロック 自動車リサイクル士制度認定講習会準備)

9月12日(木)

・東北ブロック 自動車リサイクル士制度
認定講習会

9月13日(金)

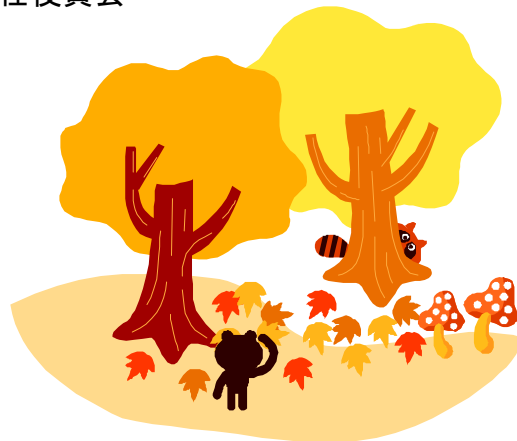
・インストラクター向けリハーサル研修会
(北海道ブロック 自動車リサイクル士制度認定講習会準備)

9月18日(水)

・第6回 広報部会

9月19日(木)

・第4回 常任役員会



お知らせ

■会員数(2013年8月現在)

会員＝669社／賛助会員＝25社

■新規ご入会者のご紹介(2013年8月ご入会)

賛助会員

埼玉県吉川市

「株式会社 アーネスト」様



■自動車リサイクル士に関するご案内

現在、自動車リサイクル士制度認定講習会の申込を受け付けているのは、「北海道ブロック」「近畿ブロック」の2ブロックです。

各ブロックの申込締切日、開催日は以下のとおりです。

北海道ブロック

★ 申込締切日 平成25年 9月20日(金)事務局必着

★ 開催日 平成25年10月 4日(金)

近畿ブロック

★ 申込締切日 平成25年10月 3日(木)事務局必着

★ 開催日 平成25年10月17日(木)

編集後記

今年は全国各地で記録的な大雨、猛暑が日本列島を襲っています。人間社会も同様に考えられないような事件が絶えません。天、人、地といわれるように天と人と地は一体です。人間の所行に対する大自然の怒りと感じてしまうのは私だけでしょうか。何はともあれ、これ以上大きな災害がないことを願うばかりです。▲いよいよ「自動車リサイクル士制度」がスタートしました。部会でも一番に皆様にお伝えしようと編集を進めたところ、ボリュームがことのほか大きくフォーマットに収まりきれません。やむを得ず別途「号外」として発行する運びとなった次第です。皆様から多く寄せられている質問事項も「Q&A」方式にまとめ、分かりやすく解説しています。より「自動車リサイクル士制度」が理解出来る仕様になっておりますので是非ご一読ください。▲気がつけば時折、秋の涼風が頬を通り過ぎてゆきます。異常気象といいながらも季節はしっかりと巡っております。

(広報部会長 永田 則男)